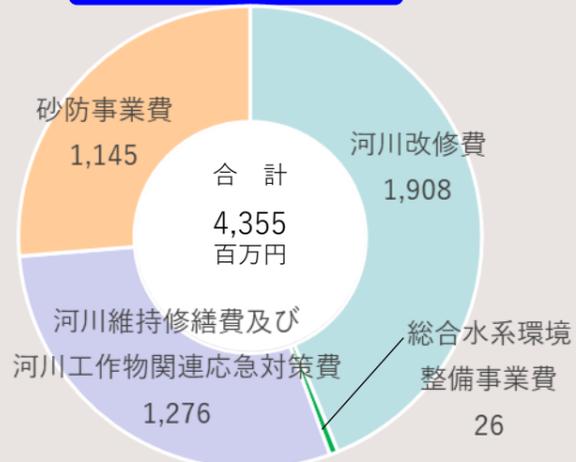
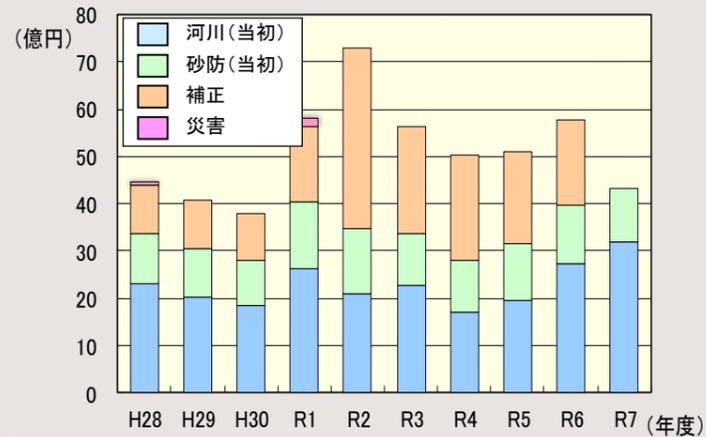


令和7年度事業費一覧



※諸費等除く、※四捨五入により合計等一致しない場合があります。

事業費の推移



旗川低水護岸整備状況 (足利市奥戸町地先、佐野市高橋町地先) [令和7年3月撮影]

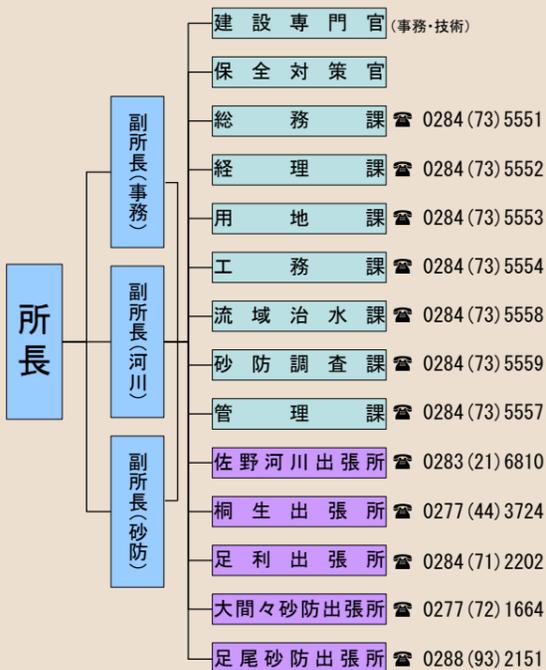
Watarase River 2025

渡良瀬川

事業概要

2025

組織(所在地・アクセス)



渡良瀬川河川事務所
〒326-0822 栃木県足利市田中町661-3

渡良瀬川流域防災情報発信施設
わたらせ川のふれあい館せせら
☎ 0284(44)3001

〒326-0046 栃木県足利市岩井町465-1 エコアールグリーンプラザ(渡良瀬グリーンプラザ) 3F

佐野河川出張所 ☎ 0283(21)6810
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町3971-10

足利出張所 ☎ 0284(71)2202
〒326-0822 栃木県足利市田中町661-5

桐生出張所 ☎ 0277(44)3724
〒376-0004 群馬県桐生市小梅町1-7

大間々砂防出張所 ☎ 0277(72)1664
〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々1204

足尾砂防出張所 ☎ 0288(93)2151
〒321-1513 栃木県日光市足尾町向原5-17

↓ X(旧:Twitter)はこちら



松木山腹工施工状況 (日光市足尾町地先) [令和6年12月撮影]

渡良瀬川の概要 ～日本一の大河「利根川」の最も大きな支流～

渡良瀬川の流域及び河川の概要

渡良瀬川は、その源を、栃木県日光市の皇海山に発し、足尾山地を流下し草木ダムに注ぎ、山間地を経て群馬県みどり市で関東平野に流れ出ます。ここより流路を南東に変え、足尾山地の南西縁に沿って流下し、左支川桐生川を合流後、栃木県足利市で岩井山を迂回します。その後、左支川の旗川、秋山川、右支川の矢場川を合流し、渡良瀬遊水地を過ぎ、左支川巴波川、思川を合わせ利根川本川に合流する一級河川です。

[源流] 皇海山(すかいさん)標高2,144m [流路延長] 111.7km [流域面積] 2,621km² [流域内人口] 約124万人 ※ 出典：第10回河川現況調査(調査基準年：平成22年)



渡良瀬川河川事務所の管理区間

渡良瀬川河川事務所では、河川管理区間として、渡良瀬遊水地より上流の東武日光線橋梁(栃木県栃木市藤岡町藤岡)から高津戸橋までの区間及び草木ダム区間、砂防区域として桐生市赤岩橋を基準点とした上流域を管理しています。

事務所管内

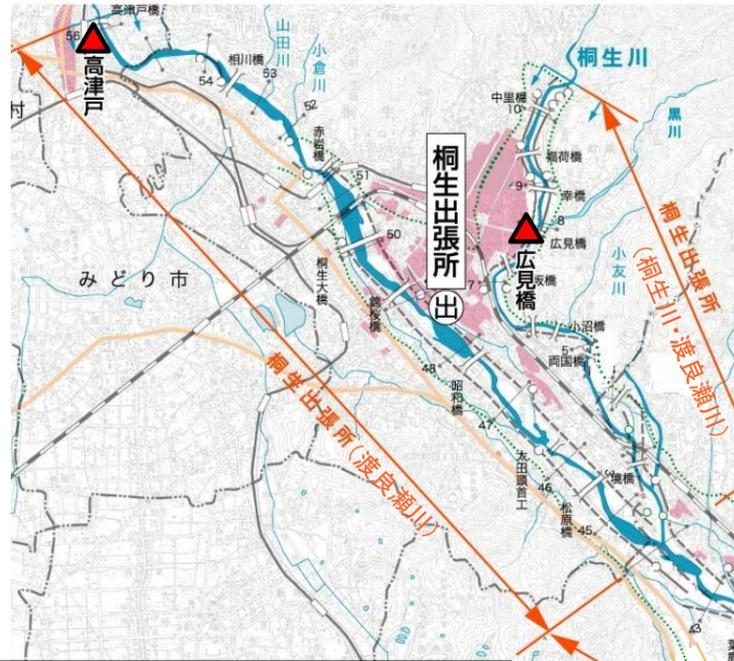
- 直轄河川管理区間：76.9km
 渡良瀬川 42.5km、桐生川 9.6km、蓮台寺川放水路 0.6km
 旗川 2.2km、秋山川 2.2km、矢場川 12.5km、
 多々良川 0.8km、草木ダム区間 6.5km

- 直轄砂防区域：504.7km²
 ※栃木県日光市足尾町の全域、群馬県桐生市の一部、
 群馬県みどり市の一部

2025 河川事業の取り組み

渡良瀬川流域では、昭和22年のカスリーン台風による出水により渡良瀬川および桐生川の堤防が決壊し、甚大な被害を受けました。その後、足尾砂防堰堤および草木ダムの建設をはじめとした上流域における整備や下流の岩井分水路の新設、河道の付替や引堤工事などの改修を実施してきました。また、内水対策として三杉川排水機場など三つの機場を整備するなど様々な対策を行い、カスリーン台風以降、渡良瀬川の堤防が決壊するなどの被害は発生していません。しかしながら、近年全国的に頻発する水災害による被害や気候変動による降雨量増大による水災害の激甚化・頻発化の予測などを踏まえると、出水に対する備えは万全とはいえません。令和7年度は、足利市の中心部を流れる渡良瀬川に架かる中橋の改築と渡良瀬川下流部における堤防の嵩上・拡幅、支川旗川の改修に取り組んでいく予定です。

河川事業の整備方針



渡良瀬川の改修

渡良瀬川の中橋下流部は、堤防の必要な高さや幅が不足しているため、弱小堤防区間において築堤(嵩上げ・拡幅)等を行います。また、旗川の下流部において築堤及び低水護岸整備等を行います。



環境の取り組み

管内の水質調査や河川水辺の国勢調査(生物調査など)、“水辺の楽校”を利用した環境学習の支援等を行います。



また、ハリエンジュを中心とした樹林化対策や河川環境の定量的な目標の検討など、ネイチャーポジティブを実現する川づくりを進めていきます。

かわまちづくり

沿川自治体のまちづくり計画等を踏まえた環境整備に向けて調整を図ります。「足利市かわまちづくり計画」に基づき、渡良瀬川堤防等を活用した「サイクルツーリズム」による賑わい創出を目指した環境整備を進めていきます。



河川の維持管理

管内(堤防延長約77km)の堤防除草、河川巡視、堤防護岸・根固め等の補修及び排水機場・水門・堰等の点検整備を行い、洪水や地震に備えています。そして、防災・減災、国土強靱化のため、河道内の堆積土砂の掘削や樹木の伐採など河川の維持に努めます。



渡良瀬川上流特定構造物改築事業(中橋)

足利市の中心部を流れる渡良瀬川に架かる中橋付近の堤防は、必要な高さや幅が不足しており、早急な対策が必要です。このため、堤防と橋梁の高さ不足の解消とまちづくりが一体となった中橋の改築を行っています。



2025年03月06日撮影

雨量・水位の観測と、洪水時の予警報の発表

渡良瀬川流域の雨量、管理河川の水位をリアルタイムで観測し、洪水時には、河川の水位に応じて渡良瀬川及び桐生川の洪水予報、水防警報を発表します。

洪水予報基準観測所諸元表				
水位	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
観測所名	(m)	(m)	(m)	(m)
▲高津戸	2.20	3.30	4.40	5.00
▲足利	3.00	3.30	4.90	5.40
▲広見橋	1.70	2.00	3.00	3.70

川の防災情報

リアルタイムの雨量と水位を知りたい時は
▼にアクセス
<https://www.river.go.jp>

渡良瀬川流域治水プロジェクト2.0

近年、全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化しており、流域全体を俯瞰し、国、流域自治体、企業等のあらゆる関係者が協働して取り組む治水対策「流域治水」を推進していくことが必要です。このため、渡良瀬川流域においては、河川管理者に加え、県、市町等の関係者が一堂に会する「渡良瀬川流域治水協議会」※を設置し、「渡良瀬川流域治水プロジェクト」を令和3年3月に策定・公表しました。その後、グリーンインフラ等を追加・更新し、さらに、気象変動のスピードに対応する必要から、流域治水の取組を加速化・深化させ、あらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図るため、令和6年3月に「渡良瀬川流域治水プロジェクト2.0」を策定しました。

※令和7年4月現在の構成員数[23]



「流域治水」のロゴマーク

堤防除草で試行したDX技術



水門・機場の管理

水門・機場の管理
菊沢川排水機場の操作制御設備は前回更新から22年が経過しており、内部機器の劣化が進行していることから操作制御設備の更新を行います。



菊沢川排水機場



水門の土砂撤去

凡例

- 河川改修事業
- 特定構造物改築事業
- ▲ 洪水予報基準観測所
- 国管理区間
- 想定氾濫区域
- 出張所別管理区間

2025 砂防事業の取り組み

渡良瀬川上流域における砂防事業については、足尾銅山の煙害や山火事等の影響により荒廃が著しい日光市足尾町地区において、砂防堰堤の建設や山腹工を実施し、出水による土砂の流出などを防ぐとともに、NPO法人との官民協働による緑の復元を実施してきました。草木ダムより下流域では、赤城山東斜面や流域内各溪流からの局所的な集中豪雨等に対する土砂災害対策を進めてきました。

また、これまで整備した砂防設備においては、完成後50年以上を経過した老朽化の著しい施設が多数存在しており、砂防堰堤等の老朽化対策として施設の改築等を随時進めています。令和7年度も土砂災害の防止・軽減を図るため、これまでの取り組みを継続すると共に新規の砂防堰堤や山腹工、既設砂防堰堤改築、渡良瀬川本川の床固群などの中心にDX技術を活用することで効果的・効率的に事業に取り組んでいきます。

砂防事業の整備方針

足尾砂防出張所管内

1 小滝川一号砂防堰堤

気候変動に伴い激甚化・頻発化する土砂災害等に対し、流出土砂の防止や不安定土砂の抑制により土砂・洪水氾濫被害の防止・軽減を図るため、新規の砂防堰堤に着手します。



不透過型砂防堰堤のイメージ

2 松木川上流堰堤群改築

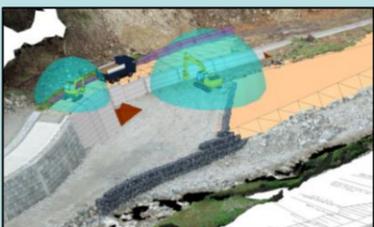
足尾砂防堰堤から上流域にある砂防堰堤の補強を行うことにより長寿命化を図るとともに、下流域内の土砂災害危険度の軽減を図ります。また、これらの施設までのアクセスを確保するため、工事用道路の整備を行います。



～DX取組事例～



ARを用いた構造物投影



3次元モデルによる
施工ステップ図

5 日光市足尾町地区における体験植樹



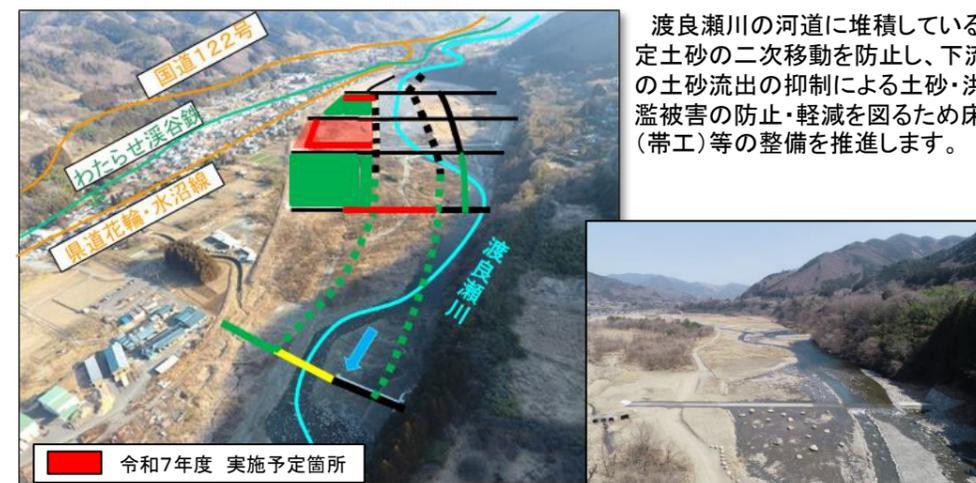
煙害や山火事等の影響で緑が失われた足尾町地区において、環境学習の一環として、体験植樹を実施しています。

足尾の山に緑を取り戻す活動としては、基盤整備（山腹工）が完了した箇所をNPO法人が植樹する場所として提供するなど官民協働による植樹活動を行っております。



大間々砂防出張所管内

3 花輪床固群



渡良瀬川の河道に堆積している不安定土砂の二次移動を防止し、下流への土砂流出の抑制による土砂・洪水氾濫被害の防止・軽減を図るため床固群（帯工）等の整備を推進します。



床固群（帯工）施工状況

4 小黒川砂防堰堤



赤城山による火山性の地質に由来する荒廃地が広く分布しており、土砂生産が非常に活発なため、流出土砂の防止や不安定土砂の抑制により土砂・洪水氾濫被害の防止・軽減を図るため、新規の砂防堰堤に着手します。



透過型砂防堰堤のイメージ

渡良瀬川流域 大規模土砂災害対策連絡会の取り組み

大規模土砂災害発生時に国と県、市及び関係者が連携し、減災活動や災害対応を円滑に進めるため、対策連絡会を設置して、防災意識の向上に関する活動及び災害対応能力の向上を図るための合同防災訓練等を実施しています。



合同防災訓練（WEB）実施状況



防災講習会の実施状況